

## ICTコトづくりの概念

- コトづくりを進めるには、ICTを中心として様々な分野にアプローチすることが重要である。
- いいものを作るだけでは国際的な比較優位を長い間保つことは難しくなっている昨今において、比較優位を長く保つためには「しくみづくり」が重要であり、これこそがコトづくりである。
- コトづくりは製造業に限定して考えられがちだが、製造業からだけ見るのではなく、日本の強い部分を海外に展開するにはどうすればよいか考えることが重要である。
- ICTコトづくりとは、医療、交通、農業、流通、環境・エネルギーといった様々な分野のフィールドに立脚して新しい社会をつくっていくことと考えている。
- アップルがユーザーのライフスタイルを転換して、今までにない新しいことをやって成功していることを踏まえると、ものだけではなくて、ユーザー体験を含めて発想することがコトづくりだと思う。
- コトづくりの概念は広く、様々なレベルの議論が存在するが、その一つに製造業のサービス化がある。
- コトづくりとはマーケティングそのものを見直して価値をつくることであり、単体のビジネスから複合的なビジネスに切り込むことである。
- コトづくりとはプラットフォーム上で展開するビジネスモデルである。
- コトづくりとはビジネスモデルであり、強いバリューチェーンをつくることである。
- ICTとコトづくりは親和性は高いが同じものではない。この区別をどのように考えるかが重要である。

# 第1回会合における構成員の発言②

## ICTコトづくりの推進に向けた検討の方向性

### 【総論】

- 従来の伝統や制約に捕らわれずに議論をおこなうとともに、単に議論するだけでなく、社会実装の仕組みづくりを提案して社会に還元したい。
- 特定のビジネス支援より、もう少し大きな展開の話をしたい。
- 政府にお願いすること、民間でできることを峻別しながら議論したい。

### 【ビジネスの革新に向けたアプローチ】

- 社会の価値観の変化に合わせて、製造業もビジネスモデルから考え直さなければいけない。
- テレビや家電を使ってどのような体験ができるのかということが問われており、製品だけでなくサービスを提供するという観点から、プロデューサー型でビジネスを進める方向に変わりつつある。
- 労働集約型のビジネスから資本集約型のビジネスへの転換とITによる効率化を進めてきたが、今後は知識やノウハウが競争の原動力になる。
- 従来は企業が一方的にユーザーに商品を提供するプロダクトアウトが主流だったが、今後はユーザーの声を第一に考えるマーケットインの考え方が重要である。
- ソーシャル・イノベーションの他に、ビジネス・イノベーションという切り口もある。
- 製造業のコトづくりだけでなく、サービス産業のコトづくりという観点もある。

### 【政府に求められる役割】

- 政府支援の終了とともに立ち消えになってしまうのではなく、社会実装できたことを確認できるようなプロジェクトが必要である。
- コンビニ、宅配、塾等、日本の強い部分を海外に展開していくことも重要であるが、これらの分野は政府の後押しはなく、業界が独自に展開している。こうした強みを日本全体でバックアップしていくための仕組みが必要である。
- ビジネスモデルは市場に委ねるのが一番であり、特定のアイデアを支援するようなことはしない方がよい。実証実験や成功事例の創出はあまり効率的ではない。

# 第1回会合における構成員の発言③

## ICTコトづくりの推進にあたっての課題

### 【データの活用方法】

- GEの事例にもあるように、データがあれば、多様な方々の参画を得て、多様なアイデアが生み出されていくので、データへのアクセスが重要である。
- 本格的なビッグデータの活用に向けて、現在の日本は何ら制限がない仕組みになっているが、透明性を確保したルールを設けた方が民間企業として使いやすい分野がある。
- 重要なのはデータであり、複数の機関での情報共有など、情報の扱いをどうするかという点が重要である。
- 大胆な規制緩和やデータ形式（メタデータ）の整理を省庁の壁を超えて政府全体で取り組むことが望ましい。

### 【個人情報の扱い】

- コトづくりと関係の深い個人情報の扱いについて、日本はグローバルの中で調和のとれていないところがあり、改善する必要がある。
- モノとコトの関係や個人情報の扱いについて、方向性を探りたい。

### 【起業家支援】

- アントレプレナーが生まれやすいムードを作る必要である。
- 米国ではスタートアップの出口の誘導まで面倒をみるインキュベーターが存在するのに対し、日本はスタートアップを支援する仕組みが弱い。こうした分野は今後日本が官民挙げて後押しすべき分野である。

### 【政府におけるコトづくりの推進】

- 政府自身が国民へのサービス産業であることを踏まえ、検討内容の政府の活動への反映をどうするか考えたい。
- 政府自身のコトづくりが進むことにより、民間のイノベーションが誘発されることから、政府の役割を検討することがこの会議のターゲットの一つになる。